



庄司千代さん・ハナノさん(小宮)

「までい」の思い出

— 生活に息づいていた「までい」 —

最近、しぎし（継ぎあて）をあて、刺しこ（縫い目）いっそ（だらけ）にしてズボンをはいているひとを全く見なくなりましたよね。「までいに」といえば、まず思い出すのは着物。ズボンのひざや、たびにしぎしをあててはいたものです。それとゴム長靴も、今は切れてしまうと捨てますが、以前はゴム糊を持って家々を歩いて、ゴム長靴の修理や、ほかに鍋などの修理を生業にして歩く人がいました。継いでもらうと修理後でもしばらくははいていられましたよ。ゴム長靴ではシンコウや三馬が良いメーカーだったなあ（笑）。

あとは、筆記用具です。鉛筆もあまり買えなかったんでしょうね、私は息子の筆入れを今も大事に持っているのですが、鉛筆も本当に短くなるまで「までい」に使っているんですね。今度孫が遊びに来たら「お父さんはこんなにまでいに使ってたんだよ」と教えてあげたいと思っています。

シリーズ

男女共同参画社会を考える

15

6月に配布された「いいいてエンジェルプラン」はご覧になったでしょうか。「料理・掃除などの家事全般は、妻のするべき仕事だ。」「はい」「共働きであつても、家事をこなすのは妻になりがち。」「はい」：「ほとんど『はい』だなあ」と言っている方、きつといたのでは？「何のこと？」と言う方、是非ご覧になってみてください。まずは、村民の皆様がプランを見て頂くことが大切だと考えています。

先日、「男と女は違うのだから、男女平等はありえないだろう。なにがエンジェルプランだ」というご意見を頂戴しました。その方は「男女平等」という言葉にかなり抵抗を感じているようでしたが、おそらく同じ様にお考えの方は多いかと思えます。

わが国では長い年月をかけて「夫は仕事、妻は家庭」という性別役割分業が培われてきたのですから、少子高齢化

社会に対応して女性にも社会に進出し国を支えてもらおうと、いろいろな政策がとられ、ジェンダーフリーが大切などと急に言われてもとまどうばかりなのです。ただ大事なことは家族や夫婦には様々な形があることを認め、幸せを感じる事ができるよう、相手（パートナー）を思いやって生活していくことだと考えます。そのためには、会話も必要でしょうし、何をしてもらったらうれしいのか、何をされたら嫌なのかを察してあげることも必要でしょう。

お叱りの言葉は肝に銘じ、これからの飯舘村の家族のあり方、夫婦のあり方を共に考えていきましょう。きつと素敵な村づくりが推進されていくことでしょう。